

鳥取市校区審議会委員（第14期）

任期：平成30年10月15日～令和2年10月14日

区分	氏名	所属、職業、住所等	10/15 出欠
学識経験者 (9名)	ほんな としまさ 本名 俊正	鳥取大学名誉教授	出
	なんぶ さとし 南部 敏	鳥取市自治連合会（自治連合会会長）	出
	たにぐち ひであき 谷口 英昭	鳥取市小学校校長会（明德小学校校長）	欠
	おんだ まさあき 音田 正顕	鳥取市中学校校長会（桜ヶ丘中学校校長）	出
	うえた みつのり 上田 光徳	鳥取市小学校PTA連合会（美和小PTA会長）	出
	よしざわ はるき 吉澤 春樹	鳥取市中学校PTA連合会（北中PTA会長）	出
	かわぐち ゆみこ 川口 有美子	公立鳥取環境大学環境学部准教授	出
	やまだ やすこ 山田 康子	ゆうゆうとっとり子育てネットワーク代表	出
	ふくやま けい 福山 敬	鳥取大学工学部教授	出
公募 (3名)	うしお りゅういちろう 牛尾 柳 一郎	無職（北園1丁目）	出
	もりもと さゆり 森本 早由里	放課後児童支援員（河原町布袋）	出
	たみや さちよ 民家 幸世	自営業（布勢）	出

（順不同、敬称略）

事務局	なかむら たかひろ 中村 隆弘	教育委員会事務局次長(兼)教育総務課長(兼)校区審議室長
	たけた じゅん 竹田 潤	教育委員会事務局教育総務課校区審議室主幹 (兼)学校教育課指導主事
	おおつぼ むねおみ 大坪 宗臣	教育委員会事務局教育総務課校区審議室主任

第14期 第6回 鳥取市校区審議会の審議概要について

- 1 日時 令和元年8月21日(水) 14時00分～16時20分
- 2 会場 鳥取市役所 第2庁舎5階 第1会議室
- 3 出席者 本名会長、南部副会長、谷口委員、上田委員、川口委員、山田委員、福山委員、牛尾委員、森本委員、民家委員
事務局：中村次長、竹田主幹兼指導主事、大坪主任

4 報告事項

- (1) 第5回校区審議会審議概要について
- (2) 校区審議に関連する活動報告について

5 議事

- (1) 本市の中長期的な校区のあり方について

鳥取市のまちづくり面も考慮した中長期的な校区のあり方についての答申を策定するにあたり、エリア分けについての方向性の確認と答申案の骨子について協議しました。

【主な意見】

- ・本市の基本的な考え方というものが最初にあって、基準はこうなのだという流れの方がいい。また、国の基準や法律に関するものが先にあった方がよい。
- ・全体として学校数が減ることはやむを得ないが、小規模校も残っていくこともあると思うので、そのあたりの含みを残して、小規模校には小規模校の良さもあるとしっかりと書いておく必要があるのではないか。
- ・地域で検討した上で現状のまま小規模校を存続させていこうとなったときに、それに対応した文言が必要なのではないか。
- ・20年後を想定して考えれば、10年で12%程度減っているということは、20年後には概ね、20数%減ってくると想定できる。
- ・答申案では、学級数も示して提案したい。20年後には、相当数の学校が基準に照らして統廃合せざるを得ない。
- ・エリア分けについては、市街地とそうでない地域とでは、だいぶ話が違ってくる。市街地ではない地域において都市計画マスタープランの中で地域生活拠点というものを置いており、そこを拠点としてエリアを考えていくのがいいのではないかと。少なくともそこには小学校が存在するというようなイメージである。
- ・これまでの歴史的な背景を考えると、旧鳥取市の部分の今後と新鳥取市の部分の今後を一律に考えることはなかなか難しい。旧鳥取市の部分では、その中でエリアをいくつか分けることはできるが、新市域の部分は慎重に考えていかないといけない。
- ・今から20年後には、おそらく今の若い方々によって、昔の地域の区切りにこだわらないもっと割り切った考え方も出てくる可能性もある。
- ・基本的には中学校区で考えていってはどうか。そうすると、新市域については、旧町村単位ということになってくる。市街地については今回議論した基準をもとに検討していくことになるのではないか。

【会長総括】

今回は、エリア分けについていくつかの案をお示ししながら議論をお願いしたい。特に、どういうエリアが考えられるかということと、そのエリアに議論いただいた基準を当てはめて、学校の数はこの程度にしたいということを含めて議論いただきたい。新市域など、なかなか近隣と統合が難しいという場合もあるが、その地域の中で魅力ある学校を作っていただくというようなまとめをしていきたいと思う。

具体的には、エリアの設定をして、そのエリアの学校数を将来何校にするのが望ましいのかということを考えていきたい。委員の意見を踏まえると、新市域については中学校区単位ということが基本になると思う。旧鳥取市の部分は、今までほとんど議論されていなかったが、20年後を見据えた形で提案させていただきたいと思う。

(2) 「千代川以西エリアの学校のあり方」について

「千代川以西エリアの学校のあり方」についての答申の方向性について協議しました。

【主な意見】

- ・もともと、危険回避から始まった話である。危険を避けるためには20年後の望ましい姿だけでなく、早めに別途答申を出すべきだろう。ただ、八千代橋を渡らなければ安全かということ、他の学校に通学するにしても安全ではない箇所もある。
- ・中長期的な考え方の中に、千代川以西の課題についても当然入ってくると思うが、この課題については20年後まで放置しておいていいのかということもある。早めに考えなければならないということになれば別に答申を出した方がいいのではないかな。
- ・このエリアはこれから人口が増える余地があると思うので学校を新しく建ててもいい。学園を中心にしたまちづくりという構想にすれば、現在の世紀小、大正小においても新しい学校に移る方がいいという方もおられるのではないかな。
- ・自治会や公民館との区域など、なかなか複雑である。町内会がない箇所もあり、自治会の加入率も低い状況の中で、地域の方々の考えが把握しにくい。そういった状況も踏まえながら、何らかの形で答申をまとめたい。
- ・この課題についてはかなり議論をし尽くされており、校区審議会としての結論は出していないといけない。

【会長総括】

今回は、地域生活拠点や適正規模の基準等をもとに、エリア分けについて議論する。その際、千代川を境に分けた方がいいということは、委員の皆さんの中でほとんど一致していると思うので、分けたときにどういったケアをすればいいのか、どういったプランを立てていけばいいのかについて次回以降ご意見をいただきたい。なるべく14期の間に方針を出して、何年かの間にこうする、それまでは従来通りか、自由選択にするとかということを含めてもう少し話を進めていきたい。

校区審議に関連する活動報告

No	月 日	実施時間	場所	会議名	内容等
1	R1.9.10 (火)	19:00 ~ 20:30	美穂地区公民館	江山地区義務教育学校設立準備委員会 (第8回環境整備部会)	江山学園長寿命化棟・増築棟の設計について・校歌・校章の選定について
2	R1.9.11 (水)	19:00 ~ 20:00	大和地区公民館	江山地区義務教育学校設立準備委員会 (第8回江山の宝応援部会)	広報紙の内容について、学校応援組織について
3	R1.9.18 (水)	15:45 ~ 16:45	美和小学校	江山中学校区小中一貫教育振興会 (第7回)	特別の教科「かがやき科」についての協議・ブロック制、部活動等について
4	R1.9.24 (火)	19:00 ~ 20:30	美穂地区公民館	江山地区義務教育学校設立準備委員会 (第9回環境整備部会)	江山学園長寿命化棟・増築棟の設計について
5	R1.9.27 (月)	19:00 ~ 20:30	美和小学校	江山地区義務教育学校設立準備委員会	江山学園長寿命化棟・増築棟の設計について・校歌・校章の選定について
6	R1.10.7 (月)	13:30 ~ 16:30	美和小学校	江山中学校区教育課程研修会	新設の教科に関する教育課程の作成

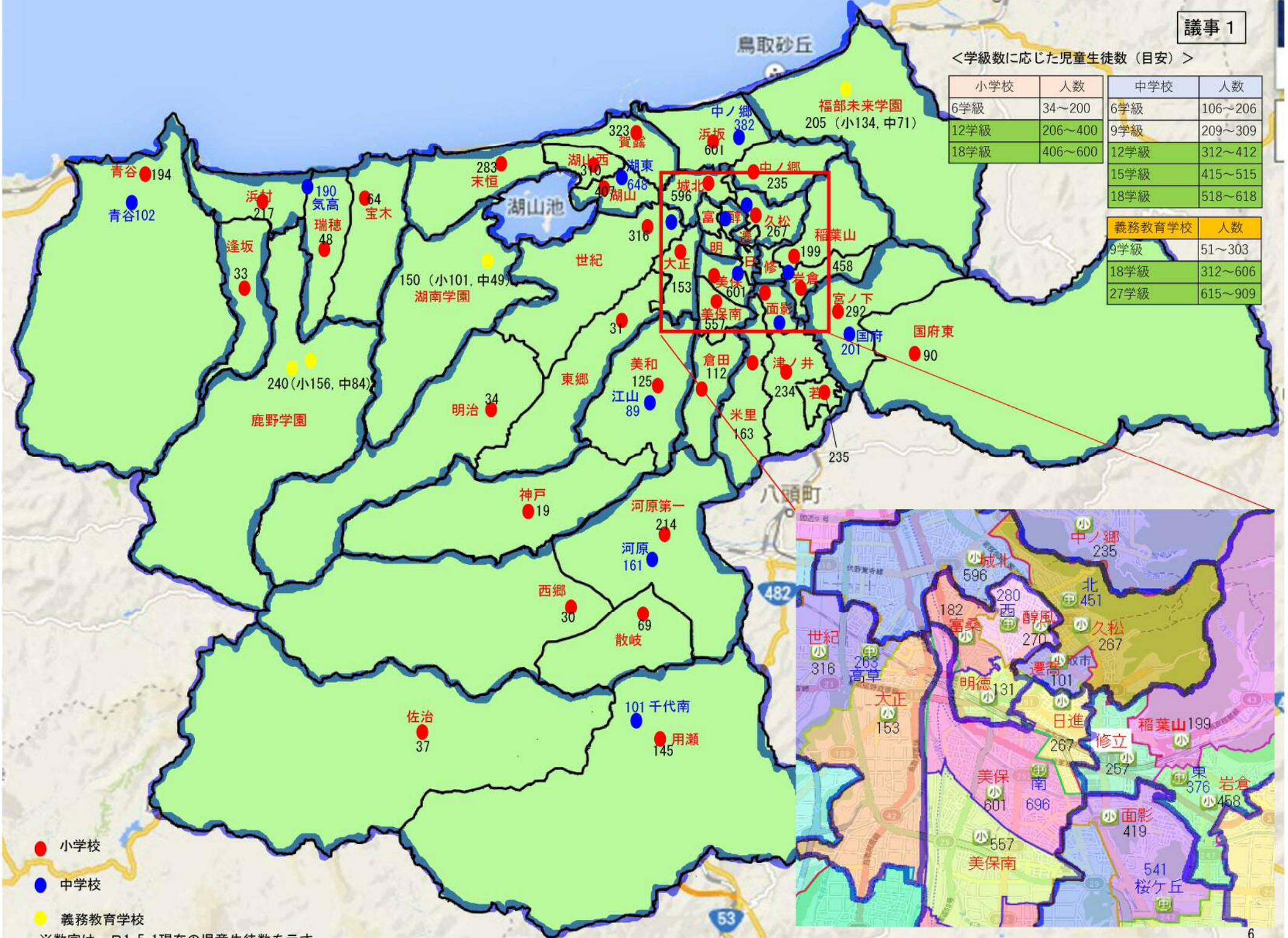
9/13	質問内容	答弁要旨
会派新生 朝野 和隆議員	<p>現在校区審議会は第14期となっているが、これまで本市における小・中・義務教育学校の学校配置及び校区設定について、校区審議会はどのようにかかわってきたか伺う。</p>	<p>校区審議会は15人以内の委員で組織されており、教育委員会の諮問に応じて、子どもたちのよりよい教育環境の整備に向けた、学校区の設定や学校のあり方等を検討していただいている。</p> <p>昭和40年に第1期校区審議会が開かれ、その後は教育委員会として諮問すべき事項が発生した都度、2年の任期で議論いただき、答申等をいただいていた。</p> <p>昭和から平成の初め頃にかけては、児童・生徒数の増や大規模宅地開発に対応する内容が多かったのに対して、市町村合併以降の平成20年頃からは、児童・生徒数減に伴う学校統合や小・中一貫校設置など少子化対策に関連した内容が、議論の中心になってきている。</p>
会派新生 朝野 和隆議員	<p>第14期校区審議会ではどのような課題について審議しているのか伺う。</p>	<p>本市の人口は、一部では宅地開発等により人口増加が進んでいるエリアがあるものの、全体として減少傾向にあり、学校の規模において教育効果の面での課題が指摘されている。</p> <p>こうした課題の解決に向けて、本市では鳥取市教育振興基本計画(平成28～令和2年度)に基づき、学校、家庭と地域が一体になり、子どもたちの育みはもとより地域の将来を見据え、各地域の実情に応じた活力ある学校づくりを推進することとしている。</p> <p>第14期校区審議会には、現在において課題解決が急がれる学校区のあり方はもとより、将来を担う子どもたちや地域にとってふさわしい学校配置・校区は中長期的にどうあるべきか審議していただいている。</p>
会派新生 朝野 和隆議員	<p>校区審議会は現在ある校区の課題について、今後どのようなスケジュール感と方向性をもって解決しようとしているのか。</p>	<p>第14期校区審議会では、これまで次の2点について6回の審議を重ねていただいている。</p> <p>(1)早急に議論が必要な学校区のあり方について (2)鳥取市全域の中長期的な学校区のあり方について</p> <p>小規模化により早急に議論が必要と考えられる学校区のうち、複数の地域で自発的に「学校のあり方を考える検討組織」が作られており、校区審議会としては、そこで導き出された方向性を尊重する一方、鳥取市のまちづくりや全体のバランス等を視野に入れて検討を進めていくと伺っている。</p> <p>また、中長期的な学校区のあり方についても活発な議論が交わされており、国が示す適性規模・配置基準等に配慮しながら、本市にふさわしい独自の基準、学校配置のあり方をまとめていこうとされている。</p> <p>平成10年から30年までの20年間で本市の児童・生徒数は約3割減少しており、第14期校区審議会では、概ね20年後である2040年の本市の姿を見据えて検討していくこととされており、来年10月の任期末までに答申をいただく予定である。</p>

<p>会派 新生 朝野 和隆議員</p>	<p>中心市街地の空洞化が指摘されて久しい。校区審議会でも、第11期以降継続して検討課題として中間まとめに取り挙げられている。狭い範囲に学校があることと小規模化に伴う教育効果の課題は喫緊の懸案事項であり、先伸ばしにすべきではないと考えるが教育長の所見はどうか。</p>	<p>先ほども申し上げたが、小規模化が進んでいる中、一部の地域で自発的に「学校のあり方を考える検討組織」が作られている一方で、検討組織が立ち上がっていない地域もあるのが実態である。</p> <p>学校の新設・統合や校区再編は、方針決定をしても実際に実現するまでに5～6年を要することもある。</p> <p>第14期校区審議会により、中長期的な学校区のあり方について答申をいただいたのちには、教育委員会としても該当地域に出かけて丁寧に説明し理解を得ることで、できるところから、「学校のあり方を考える検討組織」の立ち上げに向けて働きかけていきたいと考えている。</p> <p>いずれにしても、学校・保護者・地域が一体となって20年後を見据えた議論が活発になることを期待しているところである。</p>
----------------------------------	--	---

<学級数に応じた児童生徒数(目安)>

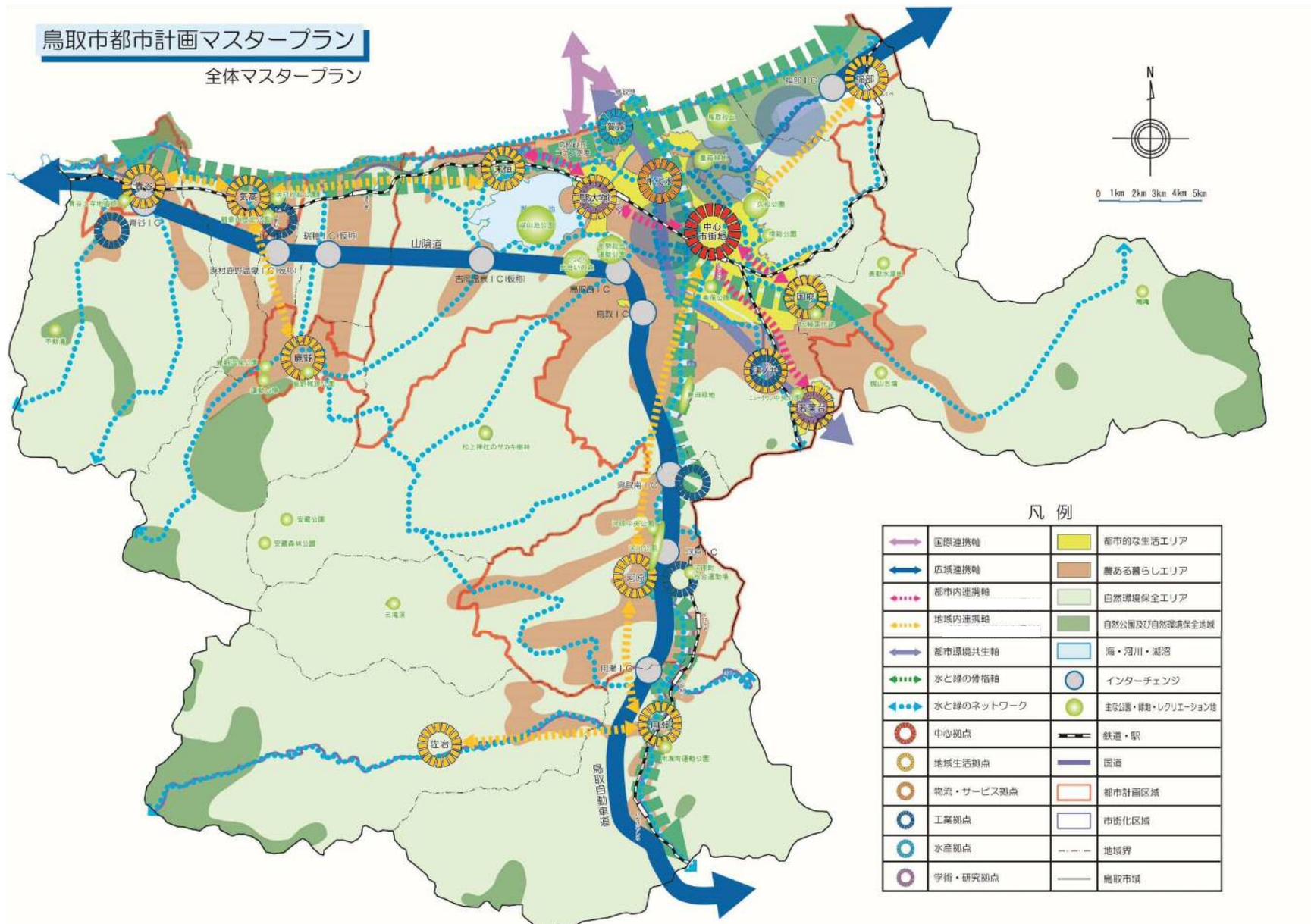
小学校	人数	中学校	人数
6学級	34~200	6学級	106~206
12学級	206~400	9学級	209~309
18学級	406~600	12学級	312~412
		15学級	415~515
		18学級	518~618

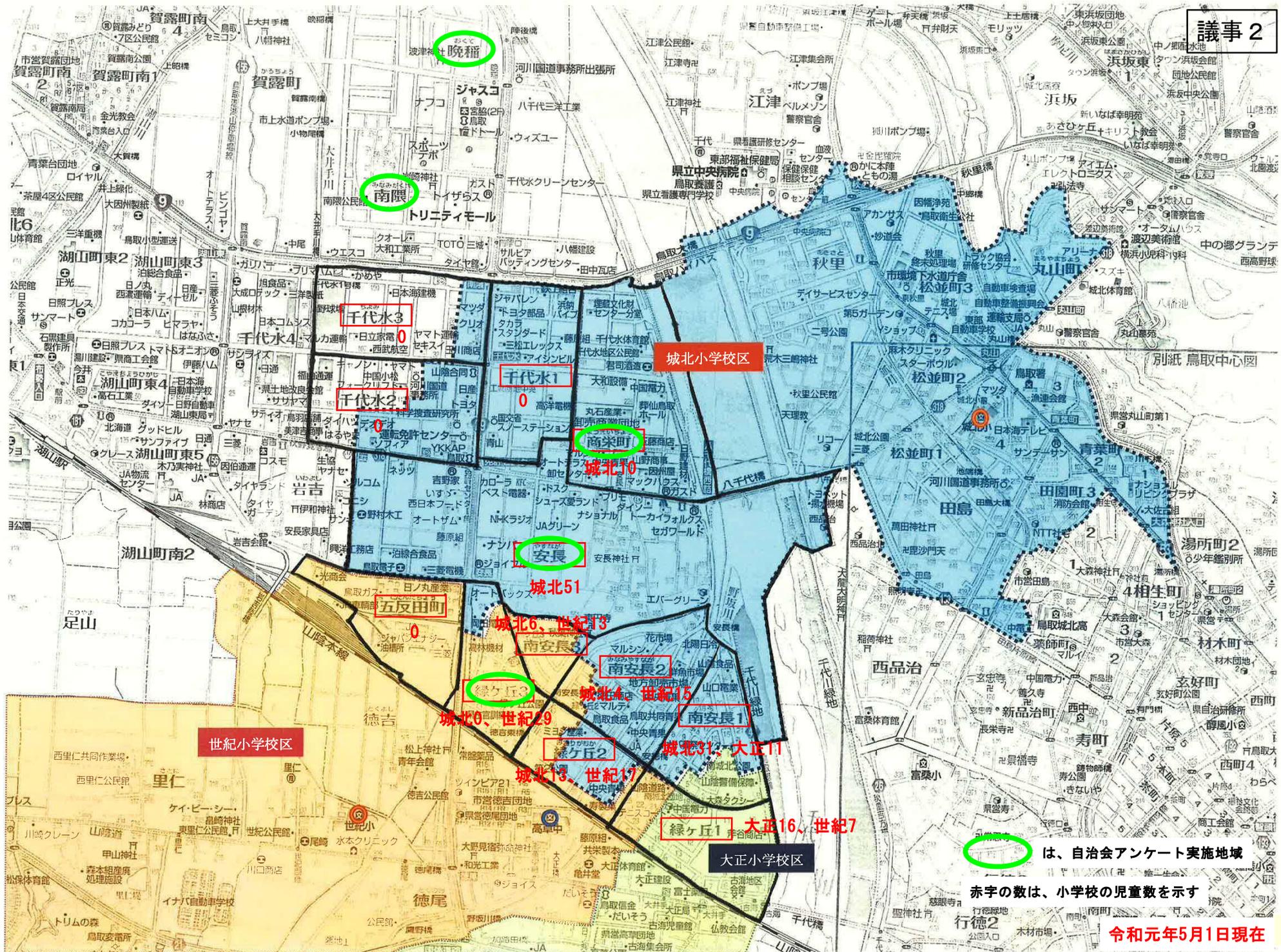
義務教育学校	人数
9学級	51~303
18学級	312~606
27学級	615~909



※数字は、R1.5.1現在の児童生徒数を示す。

7 全体マスタープラン





千代川以西エリアに在住する城北小学校区の子どもの数

2019/5/1現在

		全体	安長	商栄町	南安長1	南安長2	南安長3	緑ヶ丘2	緑ヶ丘3	千代水1	千代水2
	0歳	42	11	12	6	4	0	9	0	0	0
	1歳	34	17	2	7	1	1	6	0	0	0
	2歳	27	12	5	2	5	0	3	0	0	0
年少	3歳	31	10	4	12	1	0	4	0	0	0
年中	4歳	34	16	3	8	1	2	4	0	0	0
年長	5歳	28	7	5	9	3	1	3	0	0	0
小1	6歳	20	11	1	5	0	0	3	0	0	0
小2	7歳	29	13	1	7	2	3	3	0	0	0
小3	8歳	22	7	3	6	1	0	5	0	0	0
小4	9歳	22	6	2	8	1	1	4	0	0	0
小5	10歳	20	9	1	4	1	1	4	0	0	0
小6	11歳	23	11	3	5	1	1	2	0	0	0
中1	12歳	20	13	2	3	1	0	1	0	0	0
中2	13歳	12	4	1	3	1	1	2	0	0	0
中3	14歳	21	8	3	4	0	0	6	0	0	0
	15歳	13	5	3	3	2	0	0	0	0	0
合計		398	160	51	92	25	11	59	0	0	0

千代川以西エリアの児童数(城北小学校区在住)

※城北小学校区:安長・商栄町・千代水1～2・南安長1～3・緑ヶ丘2～3

【年度・学年別児童数】

年度	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		全校		全校生徒数 増減率 (対比R1)
	児童数	学級数	生徒数	学級数											
1	20	1	29	1	22	1	22	1	20	1	23	1	136	6	
2	28	1	20	1	29	1	22	1	22	1	20	1	141	6	
3	34	2	28	1	20	1	29	1	22	1	22	1	155	7	
4	31	2	34	2	28	1	20	1	29	1	22	1	164	8	
5	27	1	31	2	34	1	28	1	20	1	29	1	169	7	
6	34	2	27	1	31	1	34	1	28	1	20	1	174	7	
7	42	2	34	2	27	1	31	1	34	1	28	1	196	8	144.11

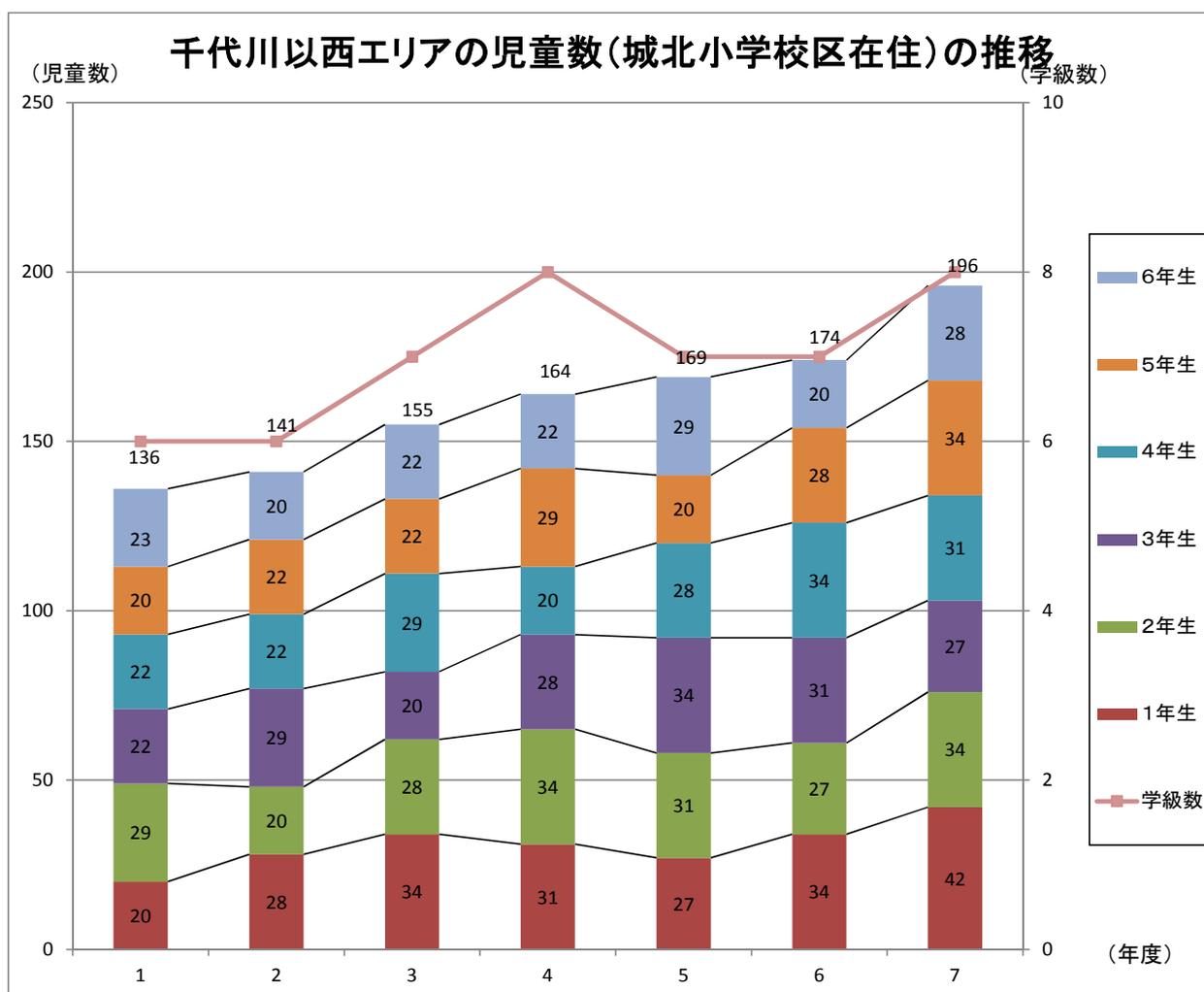
※R1.5.1現在に当該エリアに在住する子どもの数

※R2年度以降の1年生は、R1.5.1現在の該当地域出生児数

※R2年度以降の2～6年生は、前年度の各1学年下の児童数

※学級数は、鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出

(1・2年生:30人学級 3年生以上:35人学級)



千代川以西エリアの生徒数(北中学校区在住)

※北中学校区:安長・商栄町・千代水1~2・南安長1~3・緑ヶ丘2~3

【年度別生徒数】

年度	1年生		2年生		3年生		全 校		全校生徒数 増減率 (対比R1)
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
1	20	1	12	1	21	1	53	3	
2	23	1	20	1	12	1	55	3	
3	20	1	23	1	20	1	63	3	
4	22	1	20	1	23	1	65	3	
5	22	1	22	1	20	1	64	3	
6	29	1	22	1	22	1	73	3	
7	20	1	29	1	22	1	71	3	
8	28	1	20	1	29	1	77	3	
9	34	2	28	1	20	1	82	4	
10	31	1	34	1	28	1	93	3	
11	27	1	31	1	34	1	92	3	
12	34	2	27	1	31	1	92	4	
13	42	2	34	1	27	1	103	4	194.33

※R1.5.1現在に当該エリアに在住する子どもの数

※R2年度以降6年間の1年生は、R1.5.1現在の該当小学校区各学年児童数

※R8年度以降の1年生は、R1.5.1現在の該当地域出生児数

※R2年度以降の2、3年生は、前年度の各1学年下の生徒数

※学級数は、現在の鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出

(1年:33人学級、2・3年:35人学級)

